

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

# 3Dプリンター作品で、福岡の海を表現

武石一憲 福岡/デザイナー

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

## 「匠」のモノづくりに挑む「匠」を応援する。レクサスが日本全国の

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏(フアッション・ジャーナリスト/アーティスト・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイナー関係者などに向けて自



1月24日、プレゼンテーションにて



スーパーバイザー 小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



プロダクトの説明をする武石さん

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーター)が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏(SO MARTA クリエイティブディレクター)、森永邦彦氏(ANREALAGE/代表取締役社長・デザイナー)、辰野しずか氏(クリエイティブディレクター/プロダクトデザイナー)が登場し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。福岡県選出の匠、デザイナーの武石一憲さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

## ダイナミックかつ 繊細なアート作品

福岡市にデザインアトリエを構えるデザイナーの武石さんは、アクセサリーや小物などを3Dプリンターを用いて制作している。今回のプロジェクトでは、「生活の中にアートを」をテーマに取り組んだ。

アートの制作は、武石さんにとって挑戦だった。「当初はアクセサリーの制作を予定していましたが、下川氏に『このプロジェクトを通じてステップアップしてほしい』と期待され、自分にとって初めてとなる「身の回りのアート作品」を作ることになりました。始めはどうアプローチしていいかわからず悩みましたが、デザインはすぐに思い付きました」



アトリエ近くの海。アイデアは福岡の自然から

## 豊かな自然、挑戦する姿勢に感化され

武石さんは、起こしたデザインを設計図に落とし込み、海外の3Dプリンターで印刷するという工程で数々の作品を作ってきた。「CURRENT」は、彫刻だとしても時間がかかる。人の手では大変な労力を要するものこそ3Dプリンターで印刷する価値がある」と考えたという。

しかしこの繊細なデザインは、3Dプリンターでもなかなかうまくいかなかった。「依頼している海外の製造会社から、強度が足りないから作れないと指摘されました。少しずつ厚みを足すよう指示を出したのですが、思い通りにいかず、結局何度も作り直すこと



デザインを詰めながら構造もチェックしていく



完成プロダクト「CURRENT」

動きに思いを巡らせ、構想を練った。試作品第1号を前にしたエリア・コンサルティングは、ちょうど武石さんが作品の収納法に悩んでいたとき。下川氏から「ドーム形の吹きガラスはどうか」とアドバイザーさん、イメージをつかんだ。

そして完成したのが、素材にナイロンプラスチックを使い

用した「CURRENT」だ。3Dプリンター製造技術の限界を追求した繊細な作りには、目を奪われる。海中をイメージした直径30センチのガラス製ドーム越しに、360度どの角度からも鑑賞できる。ベイスプレートにはLEDライトが内蔵してあり、夜には優しい明かりがともる。作品名は、



魚群の一瞬を表現

レーションなどもできそう」と興味津々だった。武石さんは、福岡の豊かな自然からアイデアを受け取り、3Dプリンターという新しい技術を使いながら、また次の作品づくりに取り組みたいと考えている。



試作品第1号を前にエリア・コンサルティング



武石一憲 福岡/デザイナー

1979年生まれ。1級建築士。東京芸術大学美術学部建築科卒業後、米シカゴ州Cranbrook Academy of Art 建築科修了。東京芸術大学美術学部建築科教育研究助手、建築事務所勤務を経て、2011年アート&デザインアトリエmonocircus設立。日常的に使える身に着けるアート作品として、3Dプリンターを利用したアクセサリーを制作している。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT